

九州新幹線塩鶴トンネル貫通

延長4175メートルが貫通

「九州新幹線塩鶴トンネル貫通式」が31日、公団九州新幹線建設局や行政関係者、施工業者らに出席して貫通を祝うと



貫通スイッチを点火する市橋次長(左)ら
＝塩鶴トンネル坑内で

共に、今後の無事故での完成を誓った。

貫通式では、田中健二九州新幹線建設局長、小園雅美鹿児島総務事務所長、内道明県議、太久保幸夫市来町長、下茂孝一東市来町長が貫通掘削の儀を行い、貫通スイッチが押されると轟音が響き渡り、無事貫通した。田中局長をはじめ関係者が通初めを行い、貫通点で固い握手を交わしたほか、担ぎ込まれた樽酒みこしが通過点に置かれると盛大に鏡開きが行われ、貫通を祝った。

直会では、田中局長が「鹿児島ルートは鹿児島県内の用地取得は100%で、新八代、西鹿児島間の土木完成率は80%に

建設業の適正取引講習会 競争、透明性の向上を

県建設業協会(谷口屯会長)は31日、鹿児島市のサンロイヤルホテルで、県建設業団体連合会、建設業適正取引推進機構との共催で、建設業の適正取引に関する講習会を開き、建設関連業者約200人が参加、4月に施行された公共事業適正化法について学んだ。



公共事業適正化法を学んだ講習会
＝鹿児島市のサンロイヤルホテルで

開き、建設関連業者約200人が参加、4月に施行された公共事業適正化法について学んだ。

谷口会長は、建設業の競争、透明性の向上を促し、公共事業に依存している本県においては、非常に深刻な問題である。そのなか、採択の見直し、

県建築士会南薩支部 技術講習会

確認のFD申請学ぶ

県建築士会(川上道夫会長)は30日、加世田市の南薩建設業会館で南薩支部会員を対象とした建築技術講習会を開き、会

員ら60人が13年建築基準法施工規則の改正等について真剣に学んだ。

冒頭、上野美奈子事務局長が「50周年記念を前に会員普及率が山口県を抜いてトップになり会員の意気込みに感謝します。来年度の記念事業への積極参加でぜひ成功を」と述べた後、岸部憲二支部長が「県本部士会創立50周年事業を迎えるにふさわしい建築行政実務必携2001年版が県土木部建築課監修のもと士会発行で出来あがり、我々の必須の1冊を手に入れた。本日の講習会でしっかりと身につけてもらいたい。

最後に新屋敷幸隆部長が「貴重な講習会、更なる発展を期待し、来月は建築中の農大現場見学会など実施しますので奮って参加を」と呼びかけ閉会した。

明日に駆ける

株東野添建設

土木部

金坂

浩太郎さん

東京生まれの38才。7年前に約10年間勤め

た広告代理店を辞め、夫人の郷里でもある鹿児島へ。「子供のことを考えると、東京よりも自然が多い鹿児島の方がいいかなと思いましたが、

平成7年に同社に入

社、以後若い社員に交じりながら、現場を駆けまわり人一倍苦労を

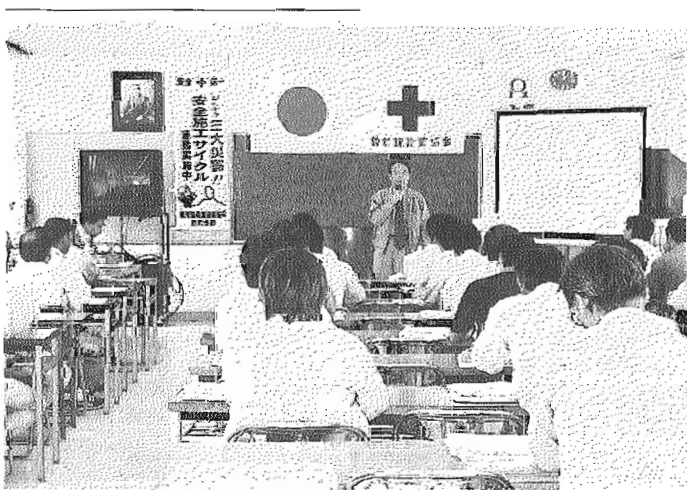
毎日の積み重ねを大切に

無災害現場へ研修会

安全衛生管理担当者52人

建設業労働災害防止協会

建設業労働災害防止協会鹿児島支部の安全衛生管理担当者52人が、建設業労働災害防止協会が26日と27日の両日、曾於分会を対象に、曾於郡大隅町岩川の大隅建設会館で開かれ、2日間



安全衛生管理のノウハウを学んだ研修会
＝大隅町の大隅建設会館で

に受講修了証が交付された。同研修会は建設業における労働災害は、就業人口が全産業の約1割であるにもかかわらず、依然として全産業の死亡災害の約4割を占めており、そのほとんどが中小総合工事業者が元請となつて施工した工事である。安全衛生管理のノウハウの蓄積、関係請負業者に対する指導を目的に、厚生労働省の委託事業である「中小総合工事業者指導力向上事業」の一環として展開しているもの。

最終日の27日の現場職長研修会では建設防衛支部の八木純一郎支部長が「これから年末の事故多発期に入る。労働災害の撲滅に向け、どのような安全管理を成すべきか、果たすべきかを真剣に考え、この研修会を果すものにして頂きたい」と挨拶。また、川畑勇三曾於分会長は「当分会管内は5年間ゼロ死亡の状態。公共事業、地方交付税も減る中、無災害で効率のよい現場を仕上げてほしい。これからの現場見学会、研修会で得るべきことは多い。しっかりと勉強し、今後の現場づくりに反映してほしい」と